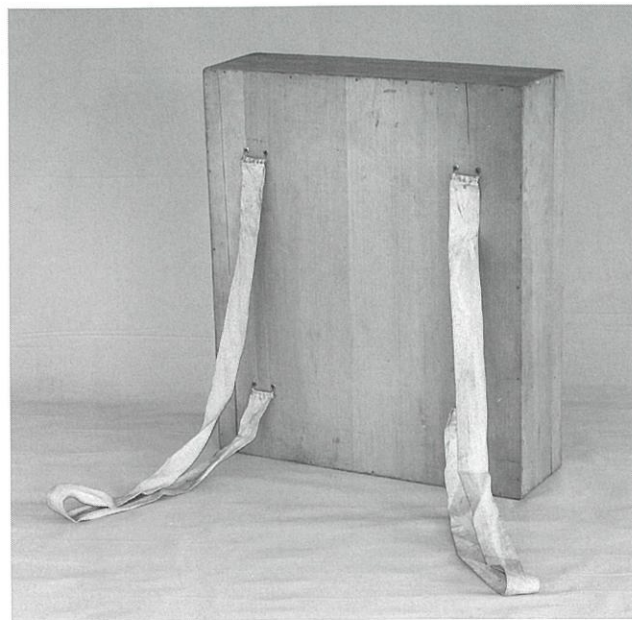


(3) 学校資料から見る戦争

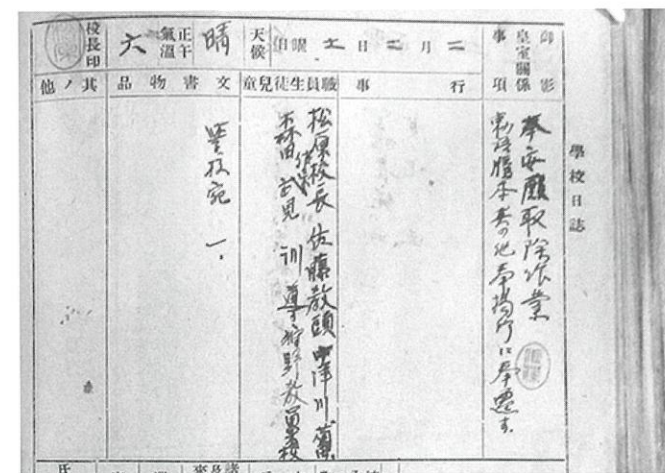
①御真影・奉安殿

「御真影」とは、天皇あるいは天皇・皇后の公式肖像写真を指します。小学校には明治30年代前半に普及し、明治23年（1890）に発布された教育勅語と共に学校儀式及び戦時中の教育に欠くことのできない存在になりました。御真影及び勅語は厳重な管理が求められ、奉安殿や奉安庫が整備されました。終戦後、勅語や御真影は教育現場から排除され、それらを納めた奉安殿も解体撤去されました。



御真影奉還背負箱

御真影を入れて運んだ木箱です。中には紐付きの綿布団と白布が入っています。

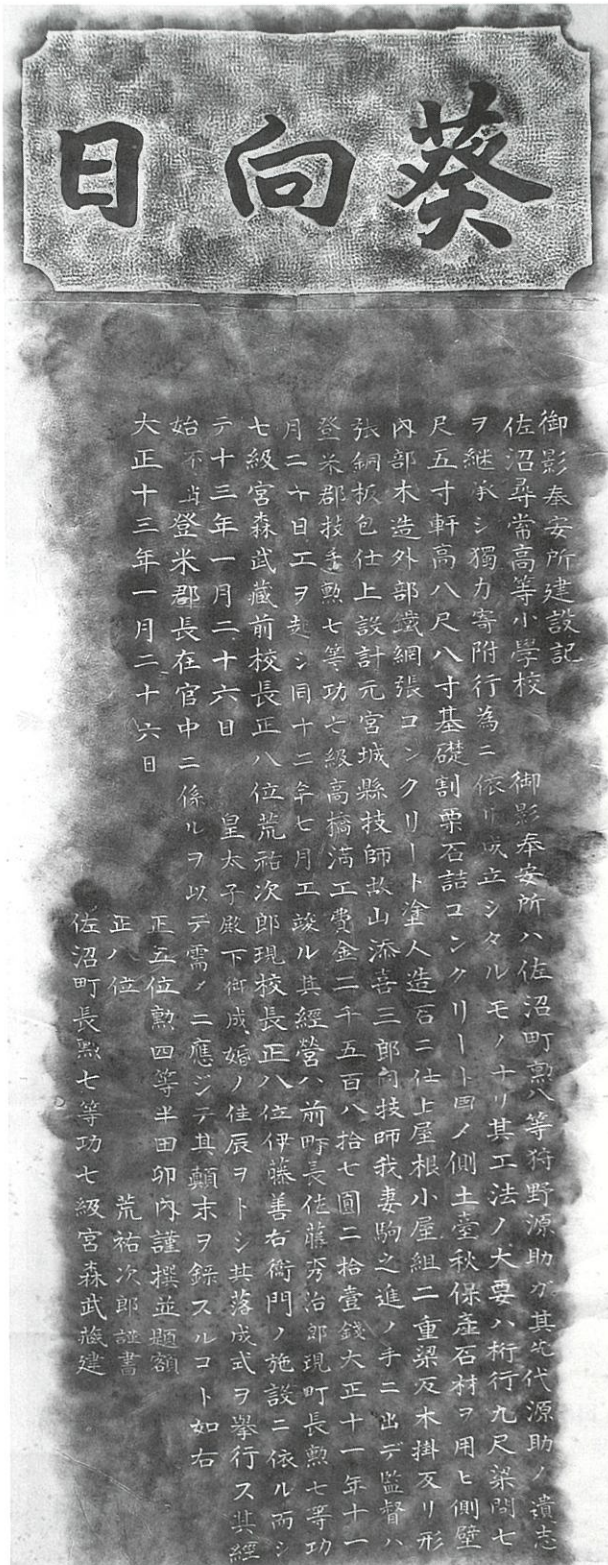


佐沼国民学校日誌 昭和21年（1946）2月2日

佐沼国民学校では、前年12月28日に御真影が返却され、2月2日から6日にかけて奉安殿の解体が行われました。

奉安殿建設記念碑拓本

佐沼尋常高等小学校奉安殿の建設記念碑を拓本に取ったものです。これによれば佐沼尋常高等小学校の奉安殿は山添喜三郎、我妻駒之進の設計で、大正11年（1922）11月20日に着工し、翌年7月に竣工しました。



②青い目の人形

登米市内には米谷小学校、上沼小学校に「青い目の人形」が現存しています。

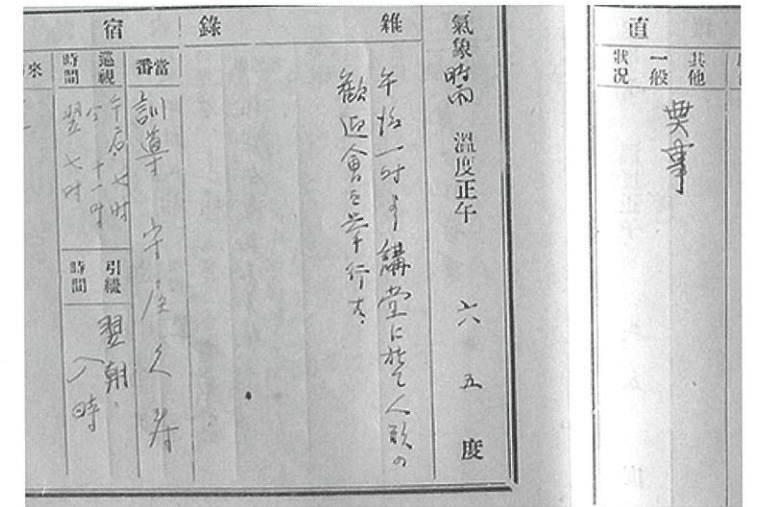
「青い目の人形」は日米親善のため、アメリカのシドニー・ギュリック氏の提案により、昭和2年（1927）に世界児童親善会から、12,739体の人形が日本へ贈られました。宮城県にはそのうち221体が振り分けられ、各学校では歓迎会が行われました。なお、市内では佐沼小学校にも配布されていたことが学校沿革史に記載されています。

しかし、戦時中に青い目の人形の多くは「敵国のスパイ」、「仮面親善使」などと言われて処分されました。そのような時代を経て現存を確認された人形は、県内でわずか10体と少なく、今回展示されている2体の人形は、その難を逃れて現存している非常に貴重な資料です。



青い目の人形「バージニア・メリー」

1992年まで家庭科室の戸棚の奥にしまわれていました。当時「青い目の人形」が県内で話題になっており、県内6番目の人形と確認されました。



米谷尋常高等小学校日誌 昭和2年（1927）5月5日

人形の歓迎会が開催されたことが記されています。

保存施設	名前
川渡小学校（大崎市）	ヘレン・ジェーン・ヘース
三本木小学校（大崎市）	ベティ・ジェーン
広淵保育所（石巻市）	ステラ・ローラネル
桃生小学校（石巻市）	メリー
村田小学校（村田町）	メリー（旧菅生小・旧村田第四小蔵）
金山小学校（丸森町）	ローズマリー（旧金山図書館蔵）
丸森町教育委員会	ベティ・ジェーン（旧耕野小・個人蔵）
個人蔵	ナンシー（旧鳴子小蔵）

県内に現存する「青い目の人形」(登米市を除く)



青い目の人形「メリー」

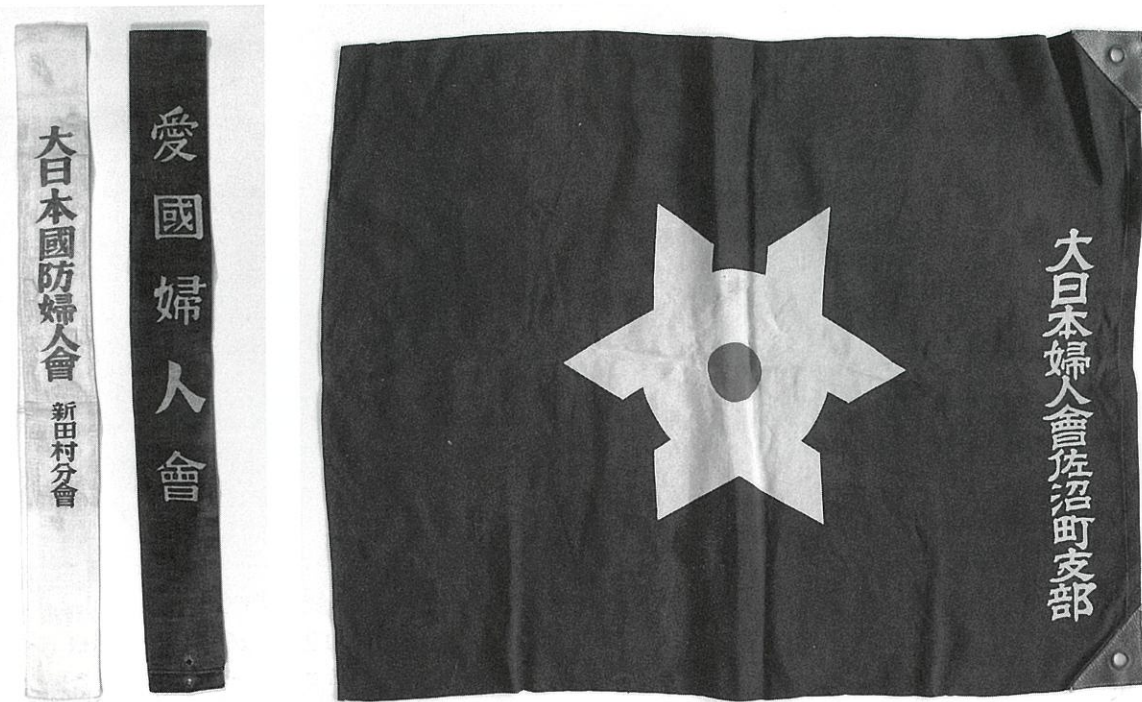
戦時中、佐沼の警察署からこの人形を焼くよう命令がきましたが、加藤八郎先生と「小使いさん」だった菅原喜久也さんの配慮で戸棚の裏に隠されたといいます。

(4) 人々のくらし

昭和13年(1938)の国家総動員法の制定により、国内の全ての人的・物的資源は政府の権限により運用できることとなりました。権限の範囲は労務、物資の動員、事業施設、諸権利の動員、事業、物価、言論の統制に及びました。

日用品は次々と配給制、切符制に変わり、鉄や銅製品の回収も行われました。

昭和20年(1945)8月15日の正午、「玉音放送」がラジオから流れ、それ以後、日本は連合国軍に管理され、生活の何もかもが変わっていきました。

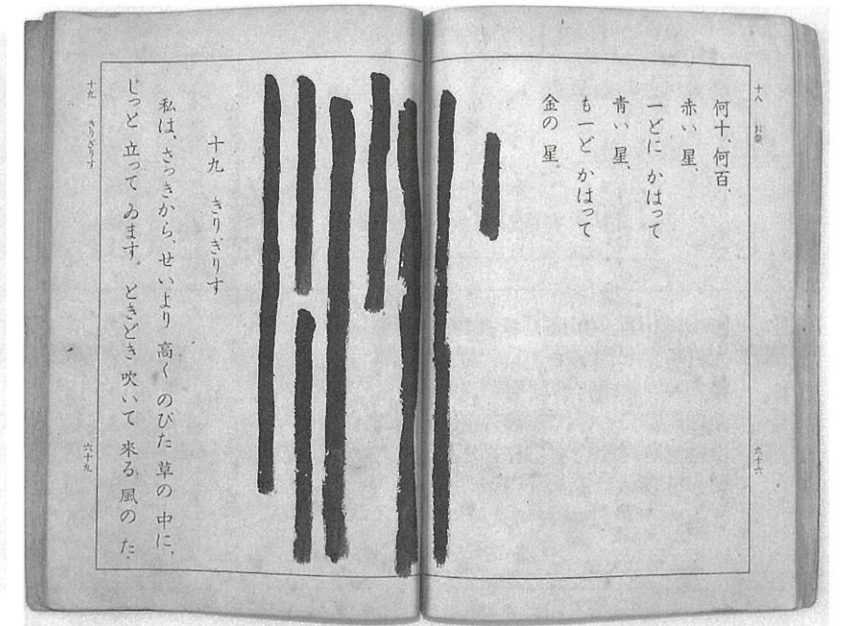


大日本国防婦人会新田村分会タスキ(左)・愛国婦人会タスキ(中)・大日本婦人会佐沼町支部旗

愛国婦人会は明治34年(1901)に、大日本国防婦人会は昭和7年(1932)に結成された婦人団体で、それぞれ戦時中の国家体制に組み込まれた組織でした。昭和17年(1942)には、政府主導により愛国婦人会、大日本国防婦人会、大日本連合婦人会などを統合し、大日本婦人会が結成されました。その後、昭和20年(1945)6月には大日本婦人会は解散し、国民義勇隊に組み込まれました。

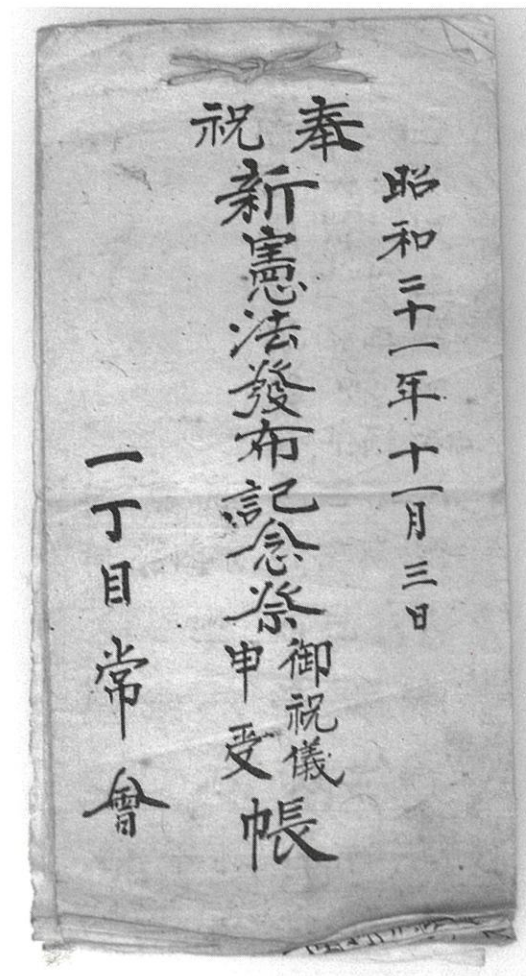
直	宿	直	日	直
事	記	事	記	事
第一回午後六時	奉安殿御景観	第一回午後六時	奉安殿御景観	第一回午後六時
第二回午後七時		第二回午後七時		第二回午後七時
第三回午後八時		第三回午後八時		第三回午後八時
第四回午後九時		第四回午後九時		第四回午後九時
第五回午後十時		第五回午後十時		第五回午後十時

米谷国民学校日誌  
 昭和19年(1944)9月6日  
 戦争が激しさを増す中、政府は東京、横浜、川崎などの都市部の住民を地方へと移住させる疎開政策を実施しました。主に縁故疎開、集団疎開などがありました。  
 小学校の児童が集団で疎開する、いわゆる「学童疎開」を登米市でも受け入れました。  
 杉並区の高井戸第四国民学校が佐沼町、石森町に、桃井第三国民学校が登米町、米谷町に、桃井第四国民学校が登米町に疎開してきました。



カズノホン 三(左)・ヨミカタ 三(右)

戦後、日本の教育は大きく姿を変えることになります。修身や武道といった軍国主義的な内容は教育現場から排除され、民主主義的教育へ生まれ変わります。教科書もそれにあわせ、軍国主義的な箇所を墨で塗りつぶし、又は切り貼りしたものを使用しました。



新憲法発布記念祭御祝儀申受帳

昭和21年(1946)11月3日

新憲法発布記念祭における柳津町一丁目常会の御祝儀申受帳です。人々の新憲法制定に対する大きな期待と喜びをうかがわれます。



チャンチャンコ 昭和20年代

ステーブル・ファイバー(レーヨン)で作られたチャンチャンコです。裏地は商品名が入った布地が当てられています。